

## 中学校の再編に向けた具体像について

### 1. 市内中学校の現状

- ・市内中学校の現状において、基本指針で再編を検討する条件とされている1学年複数クラスとなっていない中学校は次の6校となる。

- ・1学年複数クラス（35名以上）となっていない中学校（令和元年5月現在）

☆真砂中学校・>（生徒数） 6名 内訳(名)① 3② 3③ 0

（主体施設建築年）S28

（現状）前計画においても再編対象校であったが、現在2学年のみとなっている。

H30年1月において、真砂小中の再編反対・再編実施計画の凍結を要望されたが、本年6月に対策協議会との協議を再開し、9月12日に基本指針説明会を実施している。真砂小学校改築の整理、地域との協議を重ねることが課題である。

（隣接する学校と位置的状況）・・・益田東中学校、匹見中学校、美都中学校

①益田東中学校(210)・・・

生活幹線道路沿いである。路線バスの活用可能。既存校舎での受け入れキャパ有。

②匹見中学校(10)・・・

国道等を使うと距離が長い。幹線道路ではない。当該中学校へ行く公共交通機関網が発達していない。既存校舎での受け入れキャパ有。

③美都中学校(27)・・・

生活幹線道路ではないが山越えすれば近距離。公共交通機関網はある。既存校舎での受け入れキャパ有。

☆小野中学校・>（生徒数） 33名 内訳(名)① 1 1② 1 3③ 9

（主体施設建築年）H6

（現状）前計画においては西南中学校、中西中学校との3校統合が計画となっていたが、西南中学校はH29に中西中学校へ統合された。地域においては、以前再編協議会の意見として中西中に統合するなら、隣接する大きい学校へ行く方が良いとの保護者意見あり、地域間の考え方に差がある。小中学校の再編には同意しないとの流れであったが、すでに4年経過し生徒数が減少傾向。

（隣接する学校と位置的状況）・・・高津中学校、中西中学校

①高津中学校(249)・・・

生活幹線道路沿いであり、路線バスなどの行き来も多数。既存校舎での受

け入れキャパ有。

②中西中学校(56)・・

生活幹線主要道路ではないが県道等で往来できる。公共交通機関は発達していない。既存校舎での受け入れキャパ有。

☆**匹見中学校**・・> (生徒数) 10名 内訳(名)① 5② 2③ 3

(主体施設建築年) S 6 0

(現状) 本年度5月時点で10名だった生徒数が2名の転校により2学期より8名となった。説明会においては、保護者より小中一貫校や義務教育学校を視野に入れてほしいとの発言がなされた。再編した場合に通学距離、通学時間が課題である。

(隣接する学校と位置的状況) 真砂中学校、美都中学校、横田中学校

①美都中学校(27)・・

隣接はしているが生活主要幹線道路ではない。当該中学校への公共交通機関網は発達していない。受け入れキャパ有。

②横田中学校(100)・・

国道が生活幹線主要道路。公共交通機関はあるが、片道1時間強の通学時間を有する。(※校区内道川地区からの通学) また、積雪などの冬期における通学も考慮する必要あり。既存校舎での受け入れキャパ有。

※文科省：『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き』

通学時間の考え方において、「おおむね1時間以内」を目安。

☆**美都中学校**・・> (生徒数) 27名 内訳(名)① 7② 10③ 10

(主体施設建築年) S 4 9

(現状) 地区説明会での意見として、子どもが少ないため部活の選択幅が狭く、隣接する学校へ校区外通学で出ていくケースが増え、悪循環であるとの意見あり。隣接する平成28年に改築した美都給食調理場の配食先であり、食材などが地元から調達されているなど、再編された場合の地域へ与える影響が大きい。

(隣接する学校と位置的状況)・・益田東中学校、真砂中学校、匹見中学校

①益田東中学校(210)・・

生活幹線道路沿いである。路線バスの活用可能。既存校舎での受け入れキャパ有。

☆**中西中学校**・・> (生徒数) 56名 内訳(名)① 18② 16③ 22

(主体施設建築年) H 3

(現状) 西南中学校を統合し、昨年度末には屋内運動場を建築している。説明会においては、統合した西南中学校の属した二条地区において、多くの意見を頂いたが、中西地区においてはあまり意見が出ていない。令和 10 年においても生徒数については現状と変わらない。

(隣接する学校と位置的状況) ・ ・ 小野中学校、高津中学校、横田中学校

①高津中学校(249)・・

生活幹線道路沿いである。路線バスの活用可能。既存校舎での受け入れキャパ有。

②横田中学校(100)・・

高津川を挟んでの区域であり、生活幹線道路沿いとは言いがたい。当該中学校への公共交通機関網は発達していない。既存校舎での受け入れキャパ有。

☆**横田中学校**・・> (生徒数) 100名 内訳(名)①33②31③36

(主体施設建築年) S55

(現状) 来年度において入学する生徒数が 41 名の予定であり、複数クラスの編成予定。今後、生徒数推計で行くと令和 10 年には 100 名をきり、80 名程度の推測となるため、複数クラス編成が難しくなる。

(隣接する学校と位置的状況) 匹見中学校、中西中学校、益田中学校、高津中学校

①益田中学校(387)・・

生活幹線道路沿いであり、一部校区が西益田小から益田中への生徒がいる。路線バスの活用可能。既存校舎での受け入れキャパ有。

②高津中学校(249)・・

隣接はしているが生活主要幹線道路はない。路線バスの活用可能。既存校舎での受け入れキャパ有。

## 2. 再編の具体的な考え方に向けて

- ・再編の具体的な考え方については、今後 10 年先までを想定した再編への取組が必要であり、そのためにも上記に示した学校の現状を考慮して、隣接する学校との再編を考える必要がある。
- ・具体的な考え方を検討する上では、再編対象となる学校との距離や生徒、保護者の負担軽減を考慮し、公共交通機関などの生活幹線道路に沿った先にある学校であることや再編を行った場合の生徒数が対応できる学校施設を持っていることなどの理由を以て検討してみる。
- ・上記事項を基に計画期間を定め、市内中学校数の具体像をあげ、児童生徒の教育環境の充実を図るべく、学校再編を進めていくこととする。